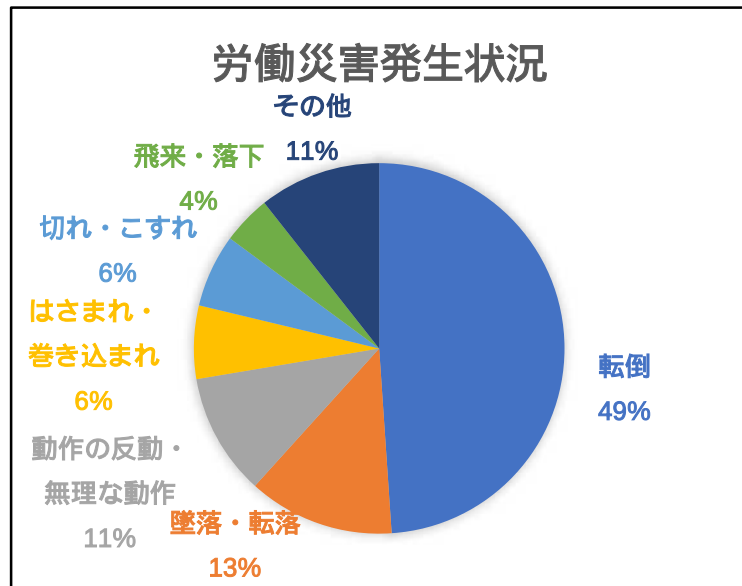


小売業における労働災害が増加しています

1 当署管内の労働災害発生状況(令和7年10月末(計47件) 事故の型別)



「転倒」が全体の5割近くを占めて最も多く、以下「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作(腰痛など)」と続いています。

労働災害の減少に向けては、

転倒防止

墜落・転落防止

腰痛防止

に対する取り組みが重要となります。

2 転倒防止

整理・整頓の徹底や段差・滑り面の改善のほか、**ストレッチ体操や体力測定などソフト面**からも転倒災害防止に取り組んでください。

参考 転倒災害のない職場 HIROSHIMA プラン



3 墜落・転落防止

小売業における墜落災害の原因の多くは「**脚立**」の不適切な使用によるものです。

脚立を使用する際は **安定した場所に置く、天板に乗らない・またがらない、2段目以下の踏みさんに乗ることを徹底**してください。

(同封のチェックリストもご参照ください。)



4 腰痛防止

(注)イラストの出典元：職場のあんぜんサイト

腰痛の発生要因は、**動的要因(重量物を持ち上げる、腰を深く曲げる、長時間同じ姿勢で仕事)、環境要因(寒冷、振動、作業場所が狭隘)、個人的要因(年齢、性別、体格)**が挙げられます。作業姿勢や腰のストレッチなど、発生要因に対する効果的な取り組みを図ってください。

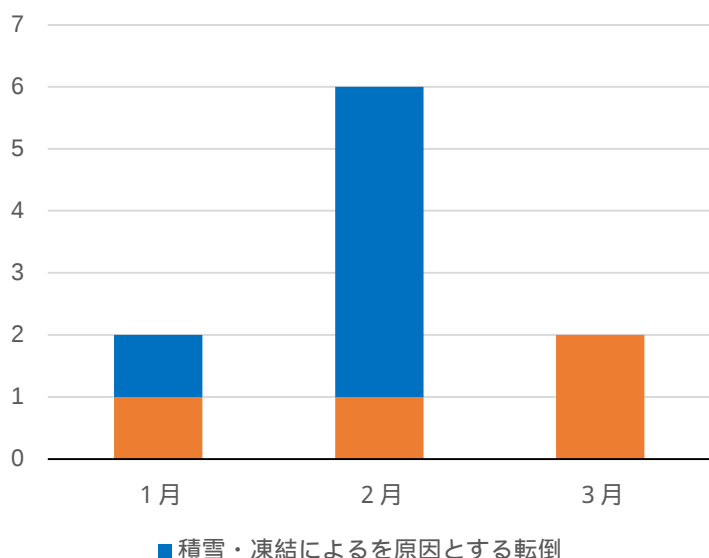
(裏面に続きます→)



積雪・凍結による転倒災害にご注意ください！

1 積雪・凍結した床面による転倒(滑り)災害の発生状況

小売業における転倒災害発生状況
(令和7年)



今年の年始は広島市の中心部でも積雪が認められ、最低気温が氷点下を下回る日が続きました。

このため、山県郡以南の地域においても積雪・凍結による転倒リスクが高い状態が続きました。

その結果、今年1月と2月において「積雪・凍結した床面による転倒(滑り)災害」が多発しました。

気象予報によると、夏場の厳しい暑さから一転して、今年の冬季も厳しい寒さとなる見込みであり、年末年始に向けて積雪・凍結による転倒災害防止の取り組みが急務となります。

2 冬季に合わせた転倒防止対策の実施

・滑りにくい履物の使用

革靴やハイヒールは危険ですので、滑りにくい靴を選びましょう。

・積雪・凍結箇所の注意喚起

マンホールや金属製のグレーチングの上、車の出入りがある箇所は特に滑りやすくなります。

転倒危険箇所を事前に把握し、関係労働者に周知してください。

・転倒しにくい歩き方

急がず焦らず、小さな歩幅で、歩くときは両手を空けて、靴の裏全体を着けて歩く

・安全通路等の確保

雪で段差や障害物が隠れる場合には、ポールやコーンを設置して注意喚起

建物入口に雪や水分除去のマット設置

屋外の通路の除雪や凍結防止剤の散布

などの措置により、関係労働者が安全に歩行できる通路を確保してください。



(注) イラストの出典元：職場のあんぜんサイト

